

# (仮称) 門真市立生涯学習複合施設整備に係る市民ワークショップ 報告書【概要版】

## 1 開催目的・開催概要

### (1)開催目的

(仮称) 門真市立生涯学習複合施設の整備に向け、施設の賑わい創出やユーザビリティの向上のため、様々な立場の方々の意見を集約し、施設価値を高めるとともに、施設でのサービス内容等を検討するために実施したものである。

### (2)開催概要

- 日時 : 令和3年6月27日(日) 10:00~12:30
- 場所 : 門真市民文化会館ルミエールホール 2階 レセプションホール
- 対象者 : ・門真市に在住・在勤・在学する者  
・小学生以上(小学生の方が参加される場合は、保護者の同伴参加が必要)
- 募集定員 : 30~40名程度
- 告知方法 : 門真市広報5月号、門真市ホームページ、門真市Twitter、チラシ、ポスター
- 申込方法 : 門真市ホームページ申込フォーム、電話、窓口
- 申込期間 : 令和3年4月23日(金)~5月28日(金) 先着順
- 参加者数 : 37名

年齢	人数
10歳未満	3名
10代~20代	4名
30代~40代	11名
50代~60代	11名
70代以上	8名
合計	37名

#### 「参考」参加者のカテゴリー

小学生6名、障がい者及びその関係者等11名(聴覚障がいをお持ちの方1名、視覚障がいをお持ちの方5名、付き添い者が3名、障がい者関係サークル等活動者2名)、ボランティア・サークル活動者10名、親子参加4組12名  
※複数のカテゴリーに該当する方は重複してカウントしています。

## 2 プログラム内容

### <テーマ>

少し未来の門真のみんなにとって、豊かな文化と学びの拠点とは？

### <内容>

1. 開会
2. 門真市長挨拶
3. 新施設の計画及び施設整備に係る市民アンケート結果説明
4. ワークショップ(ワールドカフェ方式)
5. 振り返り
6. 閉会

## 3 ワークショップの流れ

### アイスブレイク

全員で簡単なゲームを行い、参加者の緊張をほぐすことでコミュニケーションを円滑にする。

### 自己紹介

テーブル内で参加者同士の理解を深めコミュニケーションを円滑にする。

### ワールドカフェ: ①対話(10~12分)

テーマに対して、グループメンバーで対話しながら、模造紙に自由にアイデアを文字や絵で描きこむ。

### ワールドカフェ: ②移動

グループから1名(ホスト)を残し、他の人は、テーブルを移動し席替えをする。

### ワールドカフェ: ③テーブルで共有(3~5分)

移動後、ホスト役の方は新しいメンバーに前回の対話の共有を行う。

### ワールドカフェ: ④全体で共有(シェアバザール)

出てきたアイデアを整理する。

参加者は立って各テーブルを回り、模造紙に書かれたアイデアの中から自身が共感したものをふせん紙1枚に1つずつ書いていく(何枚でも可)。壁にカテゴリ分けされた白紙の模造紙が用意されているので、内容があてはまると思われるカテゴリエリアにふせん紙を各自貼る。

カテゴリは、「イメージ・雰囲気」「施設全体の機能や設備」「図書館」「文化会館(イベント・活動)」「キッズスペース・サービス」「ユニバーサル・バリアフリー」の6種類。

### クールダウン

元の席に戻り、最初に自己紹介したグループメンバー同士でワークショップの感想を共有して終了。

①③⑤を3ラウンド繰り返す

# (仮称) 門真市立生涯学習複合施設整備に係る市民ワークショップ 報告書【概要版】

## 4 ワークショップ開催の様子



### 門真市長挨拶

宮本一孝市長から、古川橋駅前のまちづくりが門真市の未来を作っていくプロジェクトであること、その中心的な事業として、生涯学習複合施設が位置付けられていることなどを参加者に説明。



### ワークショップ ラウンド2・3

席替え後、前回のグループで出たアイデアや意見を共有し、ラウンド2が始まる。ラウンド1よりも緊張が解けてきたのか、会話が弾んでいた。同様に席替えをしてラウンド3も実施。

### 新施設の計画説明

施設運営事業者のカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社より、本施設のコンセプト、レイアウトプラン、市民アンケートの結果等を説明。本ワークショップでの市民の意見を踏まえ、さらにプランを磨き上げていきたいというワークショップの趣旨を説明した。



### シェアバザール

各グループで出たアイデアや意見を整理する時間。配布されたふせん紙に、他の人のアイデアで共感したものをメモし、壁に貼られたカテゴリ別の模造紙に貼り付けていただいた。カテゴリごとに出たアイデアや意見、特徴的な内容を全体に共有。



### みんなで自己紹介

ワークショップに入る前に、グループごとに「他己紹介」のワークを実施。様々なバックグラウンドをお持ちで、多様な方々にお集まりいただいていることもあり、最初から話が盛り上がった。お互いのことを少し知り合っ、対話の準備が完了。



### クールダウン

最初のグループに戻り、ワークショップの感想を共有し、全員で記念写真を撮り終了。

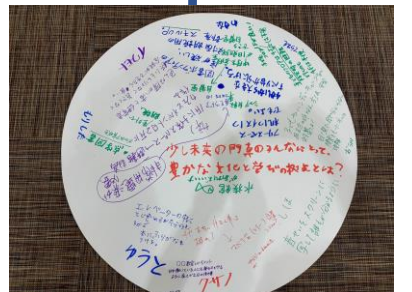
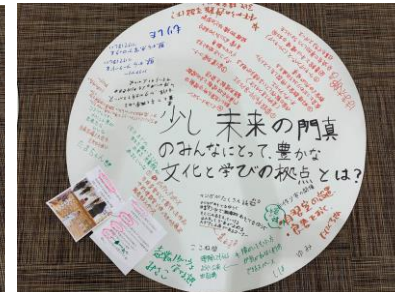


### ワークショップ ラウンド1

「ワールドカフェ」という対話形式でワークショップを実施。自分の意見を模造紙に書き出すグループもあれば、先に話を始め、その会話内容をメモするグループも。子どもたちが欲しいものを絵にかいたり、ある人は事前にメモしてきたことを書き写したり。



### 模造紙写真 (抜粋)



# (仮称) 門真市立生涯学習複合施設整備に係る市民ワークショップ 報告書【概要版】

## 5 ワークショップからの考察

### ワークショップについて

#### ■ 1. 市民同士の相互理解の場

本ワークショップは、子ども6名、障がいをお持ちの方6名を含み、年齢層も幅広い方が参加され、市民がお互いの意見を共有し合う、対話形式で行われた。「いろいろな人と話し合えた」「いろいろな意見があり、感心した」などの声から参加者それぞれが、他者との対話を通して、新たな視点に気づく機会になったのではないかと考えられる。

### ワークショップで出た意見について

#### ■ 1. 木や緑で囲まれたイメージ

「イメージや雰囲気」のカテゴリでは、木の素材を使ったものや緑のある空間を求める意見が多かった。なお、別途取ったアンケート調査の結果でも、「緑溢れる自然豊かな景観」を求めており、ワークショップの意見とも合致している。古川橋駅周辺に緑の空間が少ないことから、緑の空間を作ることによる癒しや安らぎの印象が求められていると考えられる。複合施設だけでなく、エリア全体として、まちづくり協議会や周辺事業者と景観イメージについて連携して対応していくことが求められる。

#### ■ 2. 有事の際の対応方法

「有事の際どうするか？」という視点の意見が出された。特に「4階にキッズスペースがあることで、子どもたちが逃げ遅れるのではないかな？」や「町の中心なので、災害ボランティアセンターを設置しては？」などが多かった。複合施設が災害時にどんな役割を担うかについては、周辺の公共施設との役割分担をし、設定していく必要があると考えられる。避難については、まず災害に耐えうる建物となっていることが前提として必要である。特に施設周辺は建物密集のエリアでもあり、地震ではむやみに外へ避難するよりも建物内にいるほうが安全な場合もある。そのうえで、どんな利用者でも避難しやすい設計にしておく必要がある。

#### ■ 3. 様々な読書、学習環境の提供

図書館に関わる意見では、「自然の中で読書」や「外で読みきかせ」、「防音の部屋」「小グループでの自習」など、様々な環境を求める声があった。それぞれの世代やニーズに合った、様々な読書、学習スペースの設置が求められる。

#### ■ 4. 本だけでなく、そこからの関係性

例えば「緑の広場で見つけた虫を図鑑で調べたい」や「自分の読んだ本を共有したい」など、本そのものではなく、本から広がる世界や人とのつながりを求める意見が目立った。単発のイベントだけでなく、調べ学習支援、読書コミュニティなど市民同士の関係性が育まれるような活動ができる枠組みを提供することが求められる。

#### ■ 5. 起業、副業の支援

起業支援、副業支援などを求める意見も多く上がった。コロナ以降、働き方の価値観や勤務方法も大きく変わっている。個人で何かを始めたいが、相談することができないなどの潜在ニーズがあると考えられる。門真市内の他の機関との役割分担を確認し、検討が必要である。

#### ■ 6. 各階に貸しスペース

「小グループでの学習スペース」「工作室」「ボランティアルーム」「クラブ活動の発表の場」など様々な貸しスペースのニーズがあった。これらの意見を踏まえ、2階に文化会館機能がある程度集約する予定としていた当初プランから、1階は賑わいや発表向け、3階は学習や打ち合わせ用など、各階に貸しスペースを設けるプランへの変更を検討する必要がある。

#### ■ 7. 体験型のキッズサービス

キッズスペースへの意見では、子どもと学べるイベントやお仕事体験、料理教室などの意見があがった。資料の提供に留まらず、体験型のキッズサービスが求められている。また、イベント時に子どもたちを見守る体制についても確保が求められる。

#### ■ 8. 屋上庭園での新たなアイデア

子どもたちから多く出ていたのが、「屋上で天体観測したい」などのイベント的なニーズと滑り台など遊具スペースの意見である。現計画でも屋上庭園と遊具スペースは配置されているが、ここでイベントもできるようなスペースの確保が必要であると考えられる。

#### ■ 9. 駐輪場や駐車場の台数や料金の検討

駐輪場や駐車場が必要という声はいくつか意見が出た。一方、まちづくりや環境配慮の観点から、車での来館を抑制すべきという考え方もある。自転車については、市民の主な交通手段となっており、古川橋駅も近いことから、多くの利用が想定される。敷地面積に限りがある中で、駐輪場、駐車場に充てるキャパシティをどの程度みるのか、検討が必要である。

#### ■ 10. バリアフリー細部の利用者目線

今回は、視覚・聴覚障がいをお持ちの参加者から、「エレベーターのドアが透明のほうがよい」「エスカレーターの下り口が光るとよい」「床のサインが分かりやすいので、入れた方がよい」など建物に反映すべき細やかな意見が上がった。また、「音声案内があるとよい」という意見も多かった。

#### ■ 11. バリアフリー対応と空間デザインの両立

視覚障がいをお持ちの参加者から多く上がったのが、「段差の配色への配慮」である。その中から「虹色の階段がよいのではないか？」という発想の展開があった。バリアフリー対応と空間デザインを両立したアイデアであったが、このような視点での建築設計を検討する必要がある。